

ほほえみ会

3/26 ~ 27 兵庫県から鳥取県

桑田誠子さん感謝の言葉 〜酪農を辞めてもまた一緒に〜

ほほえみ会(西平芳美会長)は、確定申告も終わりひと段落した時期に、恒例の親睦旅行を開催し会員九名に加えて、広酪から高松むつみ主任(総務管理課)が参加する中、兵庫県の城崎温泉、鳥取砂丘への旅を楽しんだ。

初日は、生憎の雪交じりの天気となったが、会員らは城崎温泉のお湯につかり一年間の疲れを癒し、至福の時間を過ごされた。

夕食では、この三月末をもって廃業される桑田誠子さんから会員の皆さん、組合に対して感謝の言葉が述べられ、西平会長や会員からは「これからも一緒に・・・」との優しい声かけられ、和やかな雰囲気懇親を深めることが出来た。

二日目は好天に恵まれ「鳥取砂丘」を楽しみ、昼食後は家族へのお土産をしっかりと手にされ「また、行きましようね」と声を掛けて帰路に着かれた。

会員からは、組合事業に対して、「酪農経営移譲推進支度金制度や後継者就学支援制度等の後継者支援への感謝の言葉もあったが、後継者の婚活やB&Wショウが岡山のようにギャラリーが多く、消費者とのふれあいも併せて行うことができたらいのでは・・・」との意見があった。



口和町酪農組合

3/27 ~ 28 熊本県山鹿市から山口県下関市

九州へ癒しの旅



口和町酪農組合(石富貞美組合長)は、恒例の酪農視察研修を防疫上の観点から、一泊二日の親睦旅行とし、町内酪農家四名に加え、広酪から中山篤志課長(事業推進課)が参加した。

一行は、サクラ咲く熊本城を訪れ、壮大な武者返しの石垣にそびえ立つ天守閣から熊本市内を眺望。

また、山鹿市では大正ロマンの感動が蘇る芝居小屋「八千代座」の回り舞台から歌舞伎役者の目線で客席を眺め、夜は、日頃の酪農作業で疲れの溜まった身体を癒し、杯を交わし同志の懇親を深め、「共に協力して、仲間が減らないように頑張ろう」と互いに決意した。

翌日は、太刀洗平和記念館で平和の大切さを学び、下関の海響館で海洋生物の生態を学び、内容の濃い研修旅行となった。



三原市酪農振興会

3/28 三原市

生乳生産に向けた 責任を再認識

(当日、参加者への説明にあたって頂いた
品質管理課の森田博さん〈左〉)



参加者らは酪農談話に花を咲かせ、参加者全員が充実の研修会と満足して帰路に着かれた。

「美味しく飲んでもらえるよう、私たちが乳を飲んでもらえるよう、生乳を搾りたい」と挨拶された。

その後、プロジェクターを使って、会社概要等の分かりやすい説明を受け、工場を見学した。

一同は、ウイングパークホテルに移動し、会食を取りながら懇親を深め、新舎会長は「なかなか工場見学をする機会に恵まれず、今日の視察研修は意義深いものとなった。私は酪農家と共に大きくなった乳業社と思うので一人でも多くの消費者に牛乳を飲んでもらえるよう、私たちが美味しく飲んでもらえるよう、生乳を搾りたい」と挨拶された。

三原市酪農振興会(新舎和久会長)は、山陽乳業(株)の視察研修を開催した。参加者は全会員七戸、夫婦で参加され、自分達が出荷した生乳が牛乳になる製造行程を視察した。

同社の木原正勝社長は「皆さんの貴重な出資のお陰で、株価の復元も八十%台に達し、早く皆さんに還元していきたい思いである。当社では広酪の生乳約三分の一の供給を受けているが、この夏もしっかり搾って頂きたい」と期待を込めて挨拶された。

庄原地域酪農振興会

3 / 28 島根県大田市 石見銀山

～石見銀山へ 日帰り旅行～

庄原地域酪農振興会(林智行会長)は、会員ら16名が参加し、世界遺産の石見銀山の町並みを散策する日帰り研修旅行を行った。広酪からは竹ノ内寛治主任(事業推進課)が参加した。

バス車中で林会長は「口蹄疫問題以来、久しぶりの旅行となった。仕事のことを忘れ、英気を養い、みんなでしっかりと懇親を深めこれからも頑張っていきましょう」と挨拶された。庄原市行政から参加の島田係長(農林振興課)は4月1日付け人事異動で他部署への配属となり、これまで皆様にお世話になった御礼と、平成24年度庄原市酪農関係事業施策の概要を述べられた。施策は、広酪の自家育成事業とほぼ同様な事業も盛り込まれる内容であった。広酪からはポジティブリスト制度に係るチェックリストの記帳徹底と飼料利用推進委員会



で決定した広酪推進重点品目を説明し、春先の農作業における怪我や事故、病気に気を付けて頂きたいと伝えた。

温泉津で海の幸を堪能した後は、ガイドから石見銀山の歴史について説明を受けながら、約800mの町並みを散策。春休みでもあり多くの観光客で賑わっていた。江戸時代を再現する民家や店舗の町並みが参加者らを和ませ、のんびりとした一日を過ごされたようであった。